



# Sekisyo 通信



R6・10・18

NO, 18

文責：校長 酒井



めざす児童像：夢や希望を追い求め、失敗も学びにかえる子

## ☆☆☆ 主体的、対話的 深い学び（第Ⅳ回校内授業研究会） ☆☆☆

今回の研究授業は4年生の国語。学校の大半の教員が事前に配布された学習指導案と子ども達の様子を交互に見ながら、授業を参観します。そんな中、いつものように授業は淡々と進みます。担当教師（担任）も子ども達も大勢の参観者が見守る中、特に緊張した様子もなく、至って普段通り。教材は、新見南吉作「ごんぎつね」、誰もが知っている名作です。

数年前に指導要領が改定されてから、私たちの授業は「主体的・対話的 深い学び」が旗印となっています。簡単にいえば、教師主導型から児童・生徒中心の授業への改定です。そのキーワードが前出の「主体的、対話的…」となります。つまり、児童、生徒が授業の主役となり、友達や教師、時には地域の方々と対話を重ねながら、更に自分の考えを広げ深く理解する学習です。

一方的な教師の教えではなく、子ども達がそれぞれの興味や関心のもと、互いの意見を交換しながら、課題を追求し、自分なりの答えを見つける。ですから教師はあくまで授業をコーディネートする側となります。だからといってただ腕を組んで見ているかといえば、もちろんそうではありません。事前に子どもの願いを整理し、疑問や悩み、つまづきを予想し、どのように舵取り取りをするかシミュレーションし授業に臨みます。環境を整え資料を作成しながら…。当然そこには、必ず学ばせたい内容や教師の思いも反映されます。国語であれば、「この言葉には着目させたい。」「この文から〇〇を想像させたい。」といった重要なこだわりです。

### 何か〇〇君、いいことに気付いたみたいだよ～。

つぶやきや、ささやきを見逃さない授業者の何気ない呼びかけで、子ども達の目の色が変わります。しかし授業者の言葉はあくまでも控えめです。

### ねえ…、〇〇君ノート見せて～。

### あ～、そういう考え、なるほどね、ありがとう。

クラス内を自由に歩き回りながら、せっせと情報を集める児童もいるかと思えば、同じ集団でずっと話し合っている子、中には一人でじっと考える子もいます。

### 先生、なんて言ったらいいの分からな～い。

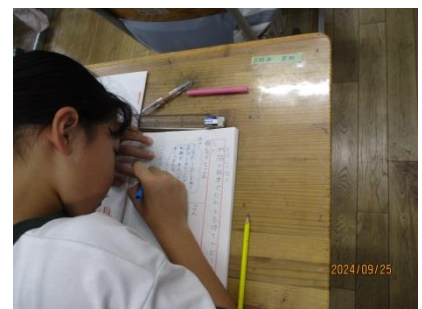
と、助けてとばかり、早々に授業者に答えを乞いに来る子には、

### それを言葉にするのが、国語です。

と、笑顔で、びしゃりと言いつ切るシーンもありました。「寄り添い・見守り・時には突き放す」ベテラン教師の為せる業です。

授業の後半には、全体での話し合いの場（練り上げ）の時間もしっかり確保し、「ごんと兵十の気持ちの変化を、叙述をもとに想像する」という授業のねらいにしっかりと近づくことが出来ました。深い学びにたどり着いた授業と言えます。

「授業力の向上が学力の向上」は本校の合言葉ですが、研究授業はそのための一丁目一番地です。45分という限られた時間の中での真剣勝負が今後も数多く実施されます。



## ☆☆☆ 10周年だよ、全員集合！（着々と準備が進んでいます。）

空き缶を片手に登校する子ども達が、一人また一人と増えてきました。来月の2日（土）に実施予定の「石川小 学校 10周年 おめでとうの会」の準備です。

今年度は石川小が誕生して10年、いよいよ来月に迫ったイベントに子ども達も大忙しです。代表委員会、企画委員会を中心に春先から粛々と準備を進めてきました。

- 1 公認キャラクターの募集
- 2 缶バッチの作成資金のための空き缶集め
- 3 縦割り班による、イベントの準備

「仰々しいものではなく、全校生が自分たちで準備を進める楽しい企画を！」例によって、「言うだけ番長」の校長でしたが、先生方のリードのもと子ども達が何度も話し合いを持ち、少しずつ形になってきました。企画、準備、進行を含め全て、「子ども達の、子ども達による、子ども達のため」のイベントです。

当初は、保護者の皆様と一緒に…と構想を練っていましたが、キャラクターの問題がクリアできず、実際に参観いただけるのは、記念コンサートのみであとはライブ配信となりますが、どうぞ、雰囲気だけでも楽しんでいただければと思います。

## ☆☆ 特設活動合奏部、堂々の銀賞！！

福島県小・中音楽祭が喜多方プラザで開催され、本校の合奏部30数名が参加しました。

今年、本校の合奏部は演奏形態をオーケストラ(管弦)から弦楽へ変えました。働き方改革や多忙化解消のため、各地区で合奏部や合唱部を廃止する学校が増える中、本地区や学校の現状を鑑みて、廃止は時期尚早であると判断しました。なんとか部を継続させるための措置が弦楽への移行です。楽器を弦にそろえることで、少ないスタッフが効率よく指導に当たることができ、講師の招聘も限定できると考えたからです。しかし、当然ながらこれまでの楽器ではなく、一から新しい楽器への挑戦を余儀なくされた子ども達もいます。ですから、練習時間も限られた中で子ども達と指導者の挑戦は休日を返上してのものでした。結果は堂々の銀賞。

**「取り組みを通して子ども達が何を学んだかが教育の評価、結果で評価するなら誰でもできる。」**

これは、特設部の活動だけでなく、多くの行事や様々なものを指導する先生方へ伝えた校長の思いです。今回の合奏部の演奏は、例え次のステージへの切符は手にできなくとも素晴らしい演奏でした。堂々の銀賞に心より拍手を贈ります。休みを返上して練習した子ども達とそれらを支えてきた指導者が奏でた最高のハーモニーでした。

保護者の皆様のお力添えにも心より感謝します。

## ☆ 秋になると…。(やぶさめの思い出)

10月の第2土・日は、我がふるさと古殿町の「やぶさめ」(古殿八幡神宮祭礼)。これとって名物の見当たらない古殿町ですが、800年前の古(いにしえ)より続くこの祭りだけは誇りです。(あくまで個人的な意見ですが…)

「八幡様までには稲刈りおわさねっかね。」「そうだな、子どもら楽しみにしてっからなあ。」

父母のやりとりを思い出します。当時の稲作は全て手作業でしたので、子どもも働き手で、9月の後半からは毎週のように一家総出で稲刈りを行います。最も、小さかった私は役立たずでしたので、その分、歳の離れた姉や兄は大変でした。

祭り当日は、友達数人と待ち合わせ、片道約7kmを歩いて会場に向かいました。お小遣いは1000円程度。小学校中学年、実に半世紀前の記憶です。「やぶさめ」も気にはなりましたが、なんといつてもお目当ては出店。型抜き、輪投げ、射的、三角くじ、そして金魚すくい。綿あめやお面は高く手が出せませんでした。祭りが終わると、帰り道の7kmは上り坂ですので余計に時間がかかります。途中運よく通りかかった車に乗せてもらえたこともありましたが…。(今では通報される!?) 全てが懐かしい思い出です。

来月は、町の八槻(やつき)市、何かと忙しい現代の子ども達ですが、折角の地元のお祭りです都合をつけて出かけてみてはどうでしょう? 小さい頃の思い出も一生の宝物です。

